

令和元年度国際物流拠点活用推進事業の成果概要

事業実施主体	沖縄セルラー電話株式会社
プロジェクト名	人工光型イチゴの海外輸出体制構築
事業内容	先進のアグリテック技術を活用した無農薬イチゴを栽培し、現在期間限定でしか輸出できていない日本のイチゴの代わりに沖縄のイチゴをアジアを中心に輸出する。構築した輸出体制を自社だけでなく、県内のイチゴ農家や他事業者にも開放するとともに、アグリテック技術を広く沖縄に普及させる。
今後の計画	アグリテック技術を活用した無農薬イチゴを通年でアジアへ輸出する。 構築した輸出体制を自社だけでなく、県内のイチゴ農家や他事業者にも開放する。
最終目標と現状	最終目標) 令和6年度までに、香港、台湾等のアジア国へ年間輸出量約20 t、雇用者数18名を計画 現状) 雇用者数6名、取引開始に向けたサンプリング送付を継続中
補助事業の効果	<div>■ 重点的に実施した事項</div> <ul style="list-style-type: none">・約400坪の建屋に人工光型無農薬イチゴ栽培設備を導入。・イチゴの出荷タイミングをAI画像分析するシステムの構築、ブロックチェーンシステムの構築。・展示会への出展や海外バイヤーとの商談の実施。海外へのサンプル品出荷によるテストマーケティングの実施。 <div>■ 補助事業の効果</div> <p>令和2年度から、先進のアグリテック技術を活用した無農薬イチゴの通年栽培を開始し、期間限定でしか輸出できていない日本イチゴの代わりに沖縄のイチゴを順次アジアへ輸出する。</p> <p>栽培事業が安定した後は、構築した輸出体制を自社だけでなく、県内のイチゴ農家や他事業者にも開放すると共に、アグリテック技術を広く沖縄に普及させていく。</p>

■イチゴ栽培設備
2020年3月完成 2020年10月下旬より収穫開始予定



■テストマーケティング
展示会への出展や商談、アジアを中心に5カ国へのサンプル出荷、アンケートの実施
試食会



展示会



■AI画像分析
出荷前のデータを送ると、糖度と色づくまでの日数が表示され、糖度と日数に応じた出荷先が選別できるようになる。



■県外出荷開始
既設工場のイチゴを活用し、冷凍イチゴの県外出荷開始

